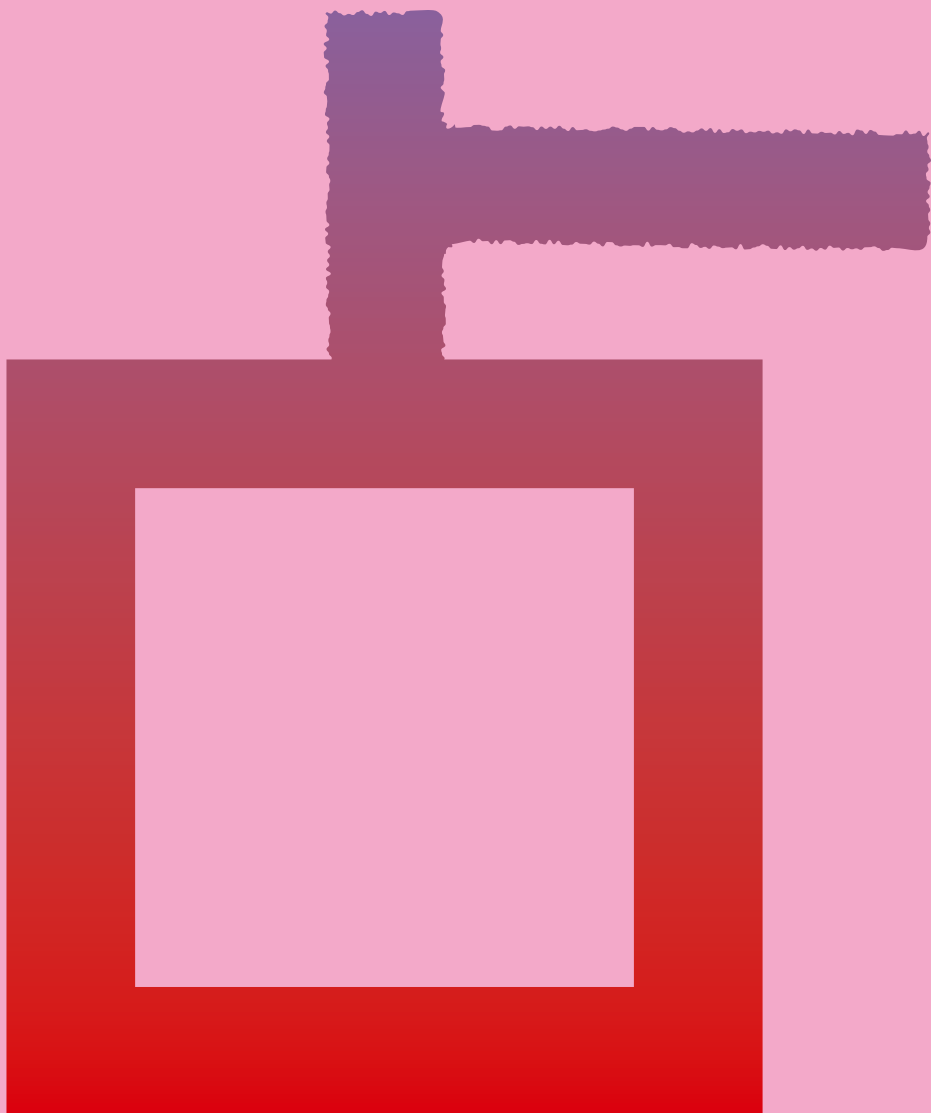
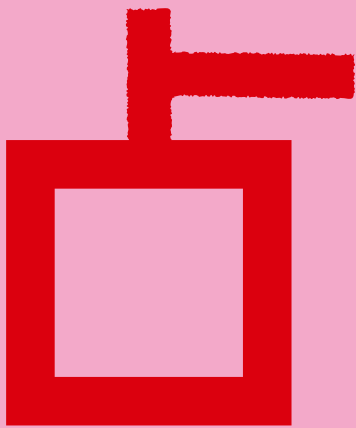


宿命の交わるところ — 秋田の場合



Port観光リサーチセンター 2014年10月18日⇒11月3日





宿命の交わるところ——秋田の場合

会意^{ほく}。トと口とを組み合わせた形。トは亀の甲羅の裏がわに、縦長に棗形の穴を刻り、その傍らにすり鉢形に穴を作り、そこを灼いて表面にできたト形のひびわれの形。そのひびわれの形でト^{うらな}のである。口は口^{さい}で、神への祈りの文である祝詞^{のりと}を入れる器の形。神に祈ってト^{うらな}い、神意を問うことを占^{うらな}とい、^{うらな}「うらなう」の意味となる。(中略)この字は「王、固て曰く」のように、王が占うの意味に使われる。占いによって知ることのできた神意は絶対のものであるから、のち「しめる、もつ、もっぱらにする」の意味となる。——白川静『常用字解』(平凡社)より

「私にとって秋田はなによりも土方巽の故郷であった。最初の訪問時に土方のご親戚の方にお会いし、彼の生家跡や子供時代の遊び場を案内していただいた際は静かな興奮を覚え、この土地に向きあいたいと強く思った。その後、地元の方から、秋田県の自殺率は十数年一位であること、また借金返済率とNHK受信料支払い率もトップであるというお話を伺った。土方巽の妻は肉体が「器」になってしまうこと、つまり超人的な“受動性”にあると考える私にとって、秋田の人々のそうした統計的特徴は、宿命を“受け流す”ことなく、しっかり“受け止める”姿としてイメージされるようになっていった。そんななか、上述の土方のご親戚の方が占いを生業にされている事実を知った。すると土方巽と宿命と占いが秋田という土地で改めて出会い、交わり、渦を巻きはじめたように感じられた。占いにフォーカスすることで、個人の宿命と秋田の宿命が交わるところを探っていけたらと思う。」——高山明

秋田の様々なメディア(TV、ラジオ、新聞、雑誌……)上で同時多発的に「占い」をテーマとした番組/記事が発表される！ ローカル・メディアの「情報の流れ」を演出する、「メディア・インスタレーション」の試み。

Port観光リサーチセンターが秋田に根ざすローカル・メディアとタッグを組み、「秋田」、そこに暮らす人々の「宿命」を「占い師」を媒介(メディエーター)として浮かび上がらせます。会期中に発表される「占い」にまつわる番組/記事は展示スペースで順次インストールされ、観客は複数のメディアが取り上げる「占いを通して見た秋田」を、まるで星座の配置のように鑑賞することができます。また、会場の一角を利用し、占い師による特別出張占いをを行います。

プロデュース:岩井成昭(秋田公立美術大学)

会場 | イーホテル秋田 AD 1階

〒010-0921 秋田県秋田市大町2-2-12

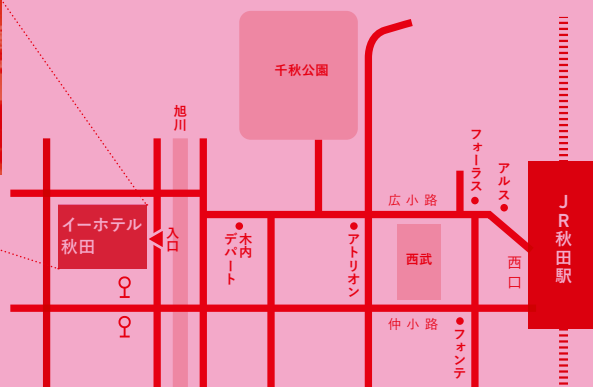
開場時間 | 2014年10月18日[土]-11月3日[月]

16:00-20:00(土日祝11:00-19:00)

入場無料 ※占い体験は有料

※詳細はあきたアートプロジェクトHPを参照のこと
(<http://akita-art-project.net/>)

オープニングイベント | 10月18日[土] 13:00-14:30 場所 | コラボラトリー



アクセス:

JR秋田駅西口より徒歩15分。繁華街「川反」目前。

JR秋田駅西口より路線バス、空港リムジンで「交通公社前」下車徒歩3分。

Port観光リサーチセンターとは?

高山明を中心に国内外で活動する演劇ユニットPort Bから発展したリサーチ・ユニット。プロジェクトに応じて、リサーチャー、編集者、プロデューサー、デザイナー、プログラマーなど専門スキルを持ったメンバーで構成される。Port Bでの演劇実践を経て培われた「演劇的思考」をリサーチ手法に応用し、都市に蓄積された膨大な歴史や事象、情報を独自の視点でサーベイし、その成果を再編集し発表する。2013年より一般社団法人として法人化。

▶ お問い合わせ先

■秋田県 観光文化スポーツ部 文化振興課

〒010-8572 秋田県秋田市山王3丁目1-1
Tel. 018-860-1530 (土曜・日曜定休)

■あきたアートプロジェクト事務局

〒010-0921 秋田県秋田市大町3丁目1-12 川反中央ビル1F
コラボラトリー内 (月曜・火曜定休)
Tel&Fax. 018-866-1559
E-mail. machi-muse@akita-art-project.net



平成26年度 文化庁
地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

ユタカな国へ

あきたびじょん

